

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104191
法人名	有限会社スリー・ジー・ビー
事業所名	グループホームえくぼ
所在地	松山市西長戸町440
自己評価作成日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームの理念である
・のびのびとした生活の場所 ・ひとりひとりを尊重した穏やかな暮らし
上記の事を利用者だけに当てはめるのではなく、家族さん、職員、地域の方々にそういう場所であるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●運営推進会議は、第一金曜日と決めて開催されている。新たに、近所の小学校の校長先生が会議に参加して下さるようになった。又、今後は、派出所の方にも参加していただけるようお願いをされている。会議では、外部評価の報告や避難訓練を行っておられる。
●事業所の前には、ご家族に手伝っていただいている畑があり、利用者も収穫等を楽しまれている。調査訪問時、スープで柔らかく煮込んだ新玉ねぎが食卓に上り、職員は「畑で採れた玉ねぎですよ」と利用者に伝えておられた。又、食事時、利用者の食事の様子を見ながら職員は箸をスプーン付きのフォークに交換されている場面も見られた。誕生日やお祭り、外食されたとき等には、ビールを飲まれることもある。食器を洗っている方や拭いたり、食器を片づけたりされている方もおられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームえくぼ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏 名 兵頭崇将

評価完了日

平成22年5月10日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 当ホームの理念である ・のびのびとした生活の場所 ・ひとりひとりを尊重した穏やかな暮らし を共有できるようにユニット内に掲示し実践できるようにしている。	
			(外部評価) 開設時、法人代表者を中心に職員全員で事業所の理念を作成されている。法人代表者は、職員に「理念に立ち戻って、ケア等について考えてほしい」と話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭りの開催や年末のしめなわ作り、もちつき等季節の行事に近隣の方に参加して頂き交流をしている。	
			(外部評価) 夏祭り等の事業所の行事には、地域の方達にチラシを配り案内されている。普段、子ども達がホームに立ち寄ってくれることもあり、今回の夏祭りには、親達の協力を得て、子ども達がお店を出してくれる予定になっている。	事業所では、地域の方達にさらにホームのことを知ってもらいたいと考えておられる。事業所は町内会へも加入されており、今後さらに、地域の一員として地域の中で根付いていけるよう、いろいろな方との交流を深めて、関係を深めていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会に地域の有識者の方々に参加していただき、事業者の業務報告や活動内容を理解していただき、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			定期的（2ヶ月に一度）に行なってはいるが、今後そ この意見をサービス向上に十分に活かすためには、職 員の積極的な参加が求められる。	
			(外部評価)	
			運営推進会議は、第一金曜日と決めて開催されてい る。新たに、近所の小学校の校長先生が会議に参加し て下さるようになった。又、今後は、派出所の方にも 参加していただけるようお願いをされている。会議 では、外部評価の報告や避難訓練を行っておられる。	事業所では、会議へのご家族の参加を増やしていきた いと考えておられた。今後、ご家族に会議の内容を報 告する等、会議の意義等も理解いただきながら参加い ただけるよう働きかけていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会に参加して頂き、協力関係を築くように取 組んでいる。	
			(外部評価)	
			運営推進会議時、市社協の担当者の方から研修を案内 いただいたり、避難訓練にも参加いただき、利用者を 避難させた後には、もう一度、各居室を確認すること 等、アドバイスをいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			昼間は玄関、内扉は開放している。 夜間、転落のある方は家族と相談しベッド柵を使用し ている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、玄関は開け放たれており、ユニット間を 行き来する利用者も見られた。現在、転倒防止のため に、ベットで休まれる際には、ベット柵を使用してい る方もある。又、鈴等を用いて利用者の動きに気付け るようになっている。	ユニットによってベッド柵を使用しておられる利用者 の方もあるようだが、この機会に身体拘束についての 勉強の機会にされたり、拘束をしないケアの工夫を出 し合い事業所の理念にも立ち戻り話し合ってみてほし い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々の業務を通し話し合いの機会を持ち実践できるようにしている。 今後は定期の勉強会のテーマとしても取り上げていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的な内容として取り上げたことはないが、今後、定期の勉強会のテーマとして、権利擁護に関する制度の理解と活用法を学び、活用できるように支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い理解、納得していただき契約の締結、解約、改定を行なうようにしている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 事業所の玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に外部の相談機関を明記したりしている。 また、積極的に事業所側から家族に意見、要望を聞き取るようにしている。 (外部評価) 事業所は、季刊誌を発行しておられたが、利用者の病院受診等、職員の人手のこともあり、発行を休んでおられる。遠方にお住まいのご家族には、毎月お送りする書類の中に法人代表者が、手紙で利用者個別に様子を知らせておられる。ご家族からは、お手紙の感想を電話してくださったり、お返事をいただくこともある。	 ご家族は季刊誌の再開を望んでおられる方もあるようだ。さらに、ご家族の声等にも応え、事業所のことをさらに知っていただくためにも、力を入れて取り組んでいることや運営推進会議の取り組み、職員の紹介や外出支援の取り組み等、ご家族の知りたいような情報を探り伝え、さらに、ご家族から具体的なご意見を出していただけるよう働きかけてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			特別な機会というのは設けていないが、個別に意見や提案は聞いており、事業所の運営に反映するようにしている。	
			(外部評価)	
			毎月、職員が持ち回りでテーマを決めて勉強会を行っておられ、ケアの悩み等の共有や解決をされている。居間の壁の飾り付け等についても季節感等を考え、利用者とともに作っておられる。調査訪問時は利用者が作った俳句とともに紙で作った紫陽花の花やでんでんむしが飾られていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			介護職員の処遇改善制度を積極的に取り入れ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修等、職員に呼びかけて可能な範囲内で参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互評価事業への取り組みや、代表のネットワークを利用した交流する機会を設けており、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に事前の調査を行い、本人のバックボーンをある程度は把握し接することで、本人の安心を確保できるような関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の聞き取り調査の段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けるようにし、より良い信頼関係が築けるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分な聞き取りを行い、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極めるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の能力や体調を考慮しつつ共同作業や単独での作業をしていただく機会を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 十分な信頼関係の構築に努め、共に本人を支えあえるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんとの係わりを中心に、馴染みの病院や馴染みのスーパーへの買い物、帰省やお墓参り等、関係の継続ができるように支援している。 (外部評価) 以前から通っている理髪店で髪を切ったり、時には友人が訪ねて来てくれることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室にこもりきりにならないように、リビングで過ごしてもらえる時間を多くとってもらえるように声掛けを工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段のコミュニケーションを通しなるべく本人から暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 (外部評価) 具体的に、病院受診や買い物に行くことを希望を言われたり、「外出したい」と言われる方には「どこに行きたいのか」をお聞きしたり、言葉等の中から採り支援できるよう努めておられる。	日々の利用者とのかかわりの中で知り得た思いや意向について情報を集めていき、介護計画に採り入れ、利用者「一人ひとりを尊重した」生活の支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 普段のコミュニケーションや事前調査の結果を通し、なるべく本人から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの体調等、日々の状態に注意して、穏やかに生活できるように、一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者には担当職員を決め、計画作成担当者を交えて介護計画を作成するようにしている。 介護計画を作成する際には、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			利用者ご本人が望んでいることや困っていることを目標に揚げて、利用者個々の担当職員を中心に話し合い介護計画を作成されている。計画書の中には、ご家族の記入欄があり、計画についての具体的な感想を記入していただくようになっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			マッサージや里帰り等、可能な範囲で利用者の要望に答えられるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			できる限りの地域資源の把握を、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人のかかりつけ医がある場合には受信の継続を行う ようにしている。 受診が困難な場合や、かかりつけ医のいない場合に は、本人、家族の同意のもと、当事業所の協力医院に 往診していただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者の受診時には職員が同行しておられる。月2 回、協力医の往診があり、24時間いつでも対応してく ださるようになっている。又、利用者の状態に応じ て、協力医、ご家族、事業所で話し合いを行っておら れる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医院の看護師に関わって頂いており、職員との情 報の共有もスムーズで、日常の様子観察の中、何らか の変化があった場合、担当医にすぐ連絡・報告できる ように努めている。	
			(外部評価) 病院関係者との情報交換はもちろんのこと、利用者が 不安にならないように定期的に訪問し、安心できるよ うに心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者との情報交換はもちろんのこと、利用者が 不安にならないように定期的に訪問し、安心できるよ うに心掛けている。	
			(外部評価) 本人の状態や容態の変化の見られるときには、かかり つけ医と事業所、本人・家族でその都度話し合いの場 を設け、方向性を確認し支援に取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態や容態の変化の見られるときには、かかり つけ医と事業所、本人・家族でその都度話し合いの場 を設け、方向性を確認し支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 現在、「最期まで事業所でお願いしたい」と希望され るご家族もある。事業所では、医療が必要になったよ うな時には、事業所での支援は、むずかしいというこ とを伝えておられる。	重度化した時のことや終末期のことは、ご本人・ご家 族も不安や心配なことでもある。今後さらにご本人や ご家族の意向等も探りながら、話し合えるような機会 を作っていかれてほしい。又、事業所の支援体制につ いても話し合う機会にされてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に防災・救急・非難訓練を実施し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に非難訓練を実施し、利用者が非難できる方法を身につけてはいるが、地域との協力体制の構築はまだである。 (外部評価) 消防署の協力を得て、火災時を想定した避難訓練を実施されている。消防署の方から、避難経路についてのアドバイスをいただいた。今年度内にはスプリンクラーの設置を予定されており、夜間想定避難訓練を実施することになっていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 (外部評価) 職員は、利用者とお話する際には、周りの利用者等にも気を配ったり、ゆっくりとした口調でお話するようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択肢を選べるような声掛けを行い、日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が思い思いのままに過ごしていただいております、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時等とはくにおしゃれ着に更衣していただくようにしている。 自分で選べない方、更衣ができない方は職員と一緒に服を選んでいただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 定期的に外食に行くように計画している。 趣味嗜好によって、アルコールや果物を提供している。 調理の下ごしらえや、片付けをできるかたには手伝ってもらっている。 (外部評価) 事業所の前には、ご家族に手伝っていただいている畑があり、利用者も収穫等を楽しまれている。調査訪問時、スープで柔らかく煮込んだ新玉ネギが食卓に上り、職員は「畑で採れた玉ねぎですよ」と利用者に伝えておられた。又、食事時、利用者の食事の様子を見ながら職員は箸をスプーン付きのフォークに交換されている場面も見られた。誕生日やお祭り、外食されたとき等には、ビールを飲まれることもある。食器を洗っている方や拭いたり、食器を片づけたりされている方もおられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食時、間食時以外にも適宜、水分補給を行なう等、個々の状態に応じて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛けにより毎食後の口腔ケアと適宜行なう義歯洗浄をおこなっているが、利用者によっては拒否される方等は毎日行なえていない。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			定期的な声掛けや排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握する事によって、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			職員は、利用者個々に排泄のサインを察知し、トイレ誘導をされている。又、トイレの場所を示す矢印を各所に付けてあり、たどって行くとご自分でトイレに行けるようになっていた。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者が日中の時間帯に入浴を希望されるので一定の時間帯で入浴介助しているが、拒否されることもあるので、本人の状態を十分に考慮し、希望に応じた順番や時間帯を今後は取り入れたい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			午後から入浴するようになっており、無理強いせず、利用者にお聞きしながら支援されている。利用者個々に石鹸やシャンプーを用意されており、一人で入る方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬分けから服用までそれぞれチェックを行い口に入れるまで見守りを行なうようにしている。 副作用や症状の変化は十分に注意し、分からない事は主治医に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の生活の中で一人ひとりが得意な事や好きなことを活かせるように役割やレクリエーションを取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月、利用者の希望を取り入れた外食・買物を計画し行なっている。 初詣や花見等喜悅の外出行事も行なっている。 (外部評価) 事業所の畑や庭に出られたり、近所を一人で散歩される方もある。事業所では、利用者からの希望もあり、月に2回外食に出かけ楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 限られた利用者だけではあるが、自分自身で買物される方は現金所持し好きなものを買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を使用できる方は自由に電話をできるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節に合った掲示物を取り入れて季節を感じれるようにしている。	
			(外部評価)	
			絵手紙教室で作った作品が掲示されており「これは私が書いたのよ」と話してくださる利用者もあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			利用者が落ち着けるように座席等工夫できている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人や家族と相談し使い慣れたものや好みの物を本人が使いやすいように配置している。	
			(外部評価)	
			利用者は日中は居間で過ごされることが多いようである。居室には、仏壇を持ち込んでおられ、ご自分で摘んできた草花が活けたり、お水をお供えされる方もある。ご家族が来られた際に、ご家族が利用されるソファを置いておられるお部屋もある。職員と一緒にお部屋の掃除をされる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			利用者の動線に障害物を置かないように気をつけている。	